

令和6年度第1回諫早市まちづくり総合戦略推進会議会議記録（要旨）

日時：令和6年12月16日（月）

15:00～16:30

場所：高城会館 大研修室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 副市長あいさつ
- 4 協議事項
  - （1）第2期諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について
- 5 閉会

【要旨】

- 4 協議事項
  - （1）第2期諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について
    - ・事務局説明
    - ・質疑応答

【基本目標1】

（委員）

観光入込客数の令和5年度の実績は223万人ということだが、1日平均人数とか、週末平均人数などの統計はあるのか。

（事務局）

詳細な数値は持ち合わせていない。

（会長）

例えば地元のお祭りには市内外から来られるが、観光客数には市内居住の方が含まれているのか。

（事務局）

この数字は主催者発表などの数字を基に作成してる。市内の方も含まれていると思われる。

(委員)

いさはやコンピュータ・カレッジのKPIが年間70人で令和5年は81人となっている。

参考までに令和6年度の1年生は59人と定員をかなり下回っている。7年度は現在募集中だが、現時点で66人なので70人は超えてくると思っている。

卒業後の状況については、今年の3月に卒業した生徒では69名が就職を希望し、68名が就職した。そのうち、48人、70パーセントが県内就職。48人のうち19名が市内就職。19名のうち、市内在住が8名、市外在住が11名で、市外から来た学生が市内に定着しており、よい数字が出ている。

(委員)

新規創業が66件となっているが業種はわかるか。

(事務局)

業種の内訳は把握できていないが、最近の傾向では飲食関係の相談が多いという認識。

(委員)

観光客数の目標はV・ファーレン長崎（のホームが長崎市へと移ったこと）の影響で10万人減としているが、宿泊数に影響はないと見込んでいるのか。

(事務局)

ホテルの宿泊については、コロナ禍前から観光客より企業関係が多い。今後も、京セラ、大型商業施設の工事関係者などが宿泊されることが多いと見込まれるので、(V・ファーレン長崎のホームが移ったことで) 多少の影響はあるかと思うが、極端に落ちるとは考えていない。

(委員)

今の稼働率がわからないが、今後、企業誘致が増え、宿泊施設の稼働率が上がっていくと、諫早のキャパシティは足りるのか。

(会長)

宿泊については、平日は工事関係の人たちでほとんど予約が取れないという話がある。週末はスポーツ関係などの宿泊があるようだが、キャパシティは今後どうなのか。

(事務局)

スポーツコミッションでスポーツ合宿の誘致を行っているが、ホテルの空きが少ないという問題は承知しており、今後の誘致においても危惧しているところ。宿泊施設は民間の開発が主になってくるので、新規の話があれば積極的に誘致したい。

(委員)

市の方針として、今後の活性化を考える上でホテルの誘致というのを積極的に行っていく姿勢なのか。

今後、ゆめタウンとかが出来て、将来的に大きく変わっていく可能性に対し、どういう方向性をもって、何を進めていくか、将来的にどういう戦略で持っていくか。

その辺の考え方がすごく大事だと思うので聞いてみた。

（会長）

小豆崎（福田町）にホテルが新しくできるという話を聞いたがどうなのか。

（事務局）

立地予定という話しは聞いているが詳細は把握していない。

（委員）

地場製品の普及促進ということで、観光コンベンション協会の売上額の目標が 5,000 万円。コロナ前の平成 30 年 が 2,499 万円なので、令和 5 年で盛り返して、頑張っていると思うが、5,000 万円までもうちょっとかなと思う。もう少し売上額を増やすような施策など考えがあるのか。

（事務局）

市としては、コンベンション協会から、ふるさと納税に積極的に商品を提供していただいております。今後も、新しい魅力ある商品を出していただけないかという相談をしている。また、東京や福岡などでの販売、ふるさと納税やネットを使った販売というところで拡大をしていく方向性と考えている。

（委員）

農地の圃場整備など進んでいるが、その後、耕作が出来ていないところも結構あると思っている。圃場整備などに合わせて、耕作者のマッチングみたいなことが出来ないかと思っているがいかがか。

（事務局）

市全体のところは掴めていないが、例えば、長田地区については、基盤整備が進んできているが、実際に耕作物が栽培されるまで至っていないという状況は見受けられる。そういう部分については農協と市が協力して進めていければと思っている。

（会長）

私からも一つ。職業訓練について、教えている科目や内容が時代に合ってるのかなと思うことがあるので、もうちょっとマッチングした内容を考えてほしい。

（委員）

今の人口には外国人が結構入っていると思う。建設会社をやっているが、職人が高齢化し日本人が少なく、外国人が 31 人いて、ベトナム、インドネシア、フィリピンから来ている。1 番の問題は言葉で、フィリピン、インドネシアは英語が通じるが、ベトナムはちょっと厳しい。だから、職場でも日本語を早く覚えなさいと言っている。今後、人を増やすのは難しいので、インターナショナルな関係も必要と思う。

(事務局)

外国人就労者はかなり増えてきてる状況。市では、今年度から、いさはや国際交流センターに委託し、対面やオンラインでの日本語教室を実施している。始めたばかりで、行き届かない部分はあると思うが、言語のコミュニケーションは重視しており、徐々に取組を浸透させていきたい。

## 【基本目標2】

(委員)

大学との連携事業はまあまあやっていると思う。

大学卒業後の進路で7割は県外に出て行く。一時期は8割程度まで行っていた。若干は県内就職が増えている。本校の就職率は96パーセントぐらい。ハローワークと連携を取っており、それを活用して就職するというのが基本で、今は3年生の夏休みぐらいから企業がインターンシップということで人集めを始めていて青田刈りが進んでいる状況。それが故に公務員志望は受かりやすくなっている。

中小企業家同友会の諫早支部が、毎年大学で9月に例会を行っており、学生と経営者のグループディスカッションで、若い人たちがなぜ諫早や長崎県内にいないかという、福利厚生を含めた給与体系の問題がでた。あとは、個人的には娯楽面などで県外の有利さがあると思う。

それでも諫早で採りたいというところは、経営者の意気込みとか企業の社会貢献とかこういう会社を目指していますなど、そういう熱意には学生も反応すると思う。

(委員)

職業柄、諫早市内で地域密着でやっているが、10年ぐらい前は社員でも大村に住む人が多かった。最近は諫早に住む社員が多くなっていると感じる。道路が良くなり、商業施設も出来つつあるなど、いろんなプラスの要素や希望があることで、少しずつ諫早に目が向いてるという感想を持っている。

今まで、商業的なところや飲食店などが人口に対して少ないという意見も結構あったと思うが、その辺も今後解消していけば、すごく魅力がある町になっていくと思う。

(委員)

ホームページのアクセス数について、確かにアクセス数も大事だが、昨今の傾向から行くと、LINEやinstagramも大事だと思う。登録者数などの数字は分かるか。

(事務局)

令和6年9月25日現在で、LINEが4万417人、Facebookが3,864人となっている。

(委員)

それらの数字は上昇傾向にあるのか。

（事務局）

LINE については県内ではトップクラスの登録者数になっている。運用については、適宜見直しており、通知が多すぎるとブロックされる場合があるので、最初に自分の住んでる地区や自分の欲しい情報を登録すると、例えば「明日空かんのゴミ出し日です」など必要な通知が来るようにしており、便利になっていると思う。instagram では様々な企画を立て、諫早市の飲食物などの紹介を集める企画をやっており、少しずつではあるが広まっている状況。

（委員）

私も登録してるが、非常に中身が見やすいと思う。

諫早から出ていく卒業生などに、登録をしてくださって伝えたと、諫早を出ていっても、ふるさとの絆が繋がって、リターンにも繋がるかもしれないし、ふるさと納税にも繋がるかもしれないので、ぜひその呼びかけをお願いしたい。

（事務局）

QR コードを封筒に印刷したり、そういったところで目を引くような工夫をしていきたい。

（委員）

8 年ぐらい前、福岡市はミャンマー人を募集するために、ミャンマーの方の集いを作り、派遣する事業などを市が一緒に取り組んでおり、私の施設も 3 人ぐらい受け入れた。インドネシアは今から第 4 の人口になると言われていて、最低賃金も月額 2 万ぐらいなので、結構日本に来ている。

日本語教室もいろんな国の言葉があるので、どの国がいいかはわからないが、ラオスだったり、インドネシア系など、その辺をやっていたらけるとありがたい。

（事務局）

東南アジアが今ターゲットではないかと思っている。今年、市といさはや国際交流センターと鎮西学院の三者で話し合いの場を設けた。専門的な言語となると大学の力がないと難しいので、今後も引き続き三者で協力しながら、どういった日本語教室を開催した方が需要に答えられるのか探していきたい。

### 【基本目標 3】

（委員）

婚活イベントの回数は年 7 回目標で令和 5 年度は 5 回開催となっているが、どれくらい成婚しているか。

（事務局）

平成 27 年から令和 5 年度の 9 年間で 163 組がカップリングという報告があっている。

その後の成婚状況などの報告を可能な範囲でお願いしているが、参加者のプライベートな情報でもあり、把握できていない状況である。

（委員）

こどもの城を中心とした子育てに関する心理面での支援という点ですが、こどもの城、すくすく広場、自然の家が相互連携しているということなのか。具体的なことがあれば教えてほしい。あと1点、心理面での支援について、学校、関係団体、保護者などにどのように周知をしているのか教えてほしい。

（事務局）

こどもの城の職員が、出前講座で、市内保育園など色んなところに出向いて、子育ての心配があるご家族やお母さんがいれば、すくすく広場の支援に繋げるなど、心理的な面のフォローをしていけるような体制を取っている。

（委員）

諫早市は雨の日に遊ばせるところがない。運動公園などはあるが、雨の日に子どもたちを家から出して連れて行って遊ばせる。そういう環境にも目を向けたらよいのではないか。

（事務局）

雨の日の遊び場がないという声は聞いている。こどもの城があるが、場所が遠く、簡単に子どもだけでは行けないので、各地域にあればよいのかなと感じている。子育て支援センターなどにも協力いただきながら、そういうものができるか研究していきたい。

（委員）

こども準夜医療センターについて、継続して実施となっている。諫早方式と言われていて、全国でも珍しい方式で評価が高い。市が支援し、諫早病院で実施している素晴らしいものなので、続けていただきたいが、小児科の先生方が少なくなり運営するのが大変ということを聞いた。続けていただきたいので、市として支援が出来るようなことはないか。

（事務局）

準夜診療はかなり需要も高く、総合病院の窓口を利用しているところが特徴。土曜日の午後や夜間に急に熱が出たりした場合に、非常に助かるという話は聞いている。休日当番も含めて充実させてほしいという保護者の意見も聞いているが、小児科医師の高齢化が進んで、若い先生が少ない状況であり、休日当番を増やすとパンクするという話をいただいている。小児科の先生にどのようにお願いできるかというのは、今後研究していく必要があると思っている。

準夜診療は続けていきたいと思っており、隣の雲仙市に、そういう施設がないということで、雲仙市が負担金を払って雲仙市の方も利用している。諫早市、雲仙市、独自に実施している大村市や医師会と相談しながら、より良い方向を考えていかなければいけないと思っている。

（会長）

自宅介護の影響で結婚したくないというのをよく聞く。

自分の親じゃないけど介護しないといけないのが嫌だ。なおかつ、面倒を見て、亡くなった時に法定相

続人にもならないから何も報われない。意外とそこは大きいんじゃないかなと思う。表には出てこない  
ので難しいと思いますけど調査とかできれば。

（委員）

防災マップの作成がもうちょっとで 100 パーセントで頑張っているというということだが、早く作成した  
地区では状況が変化している。5 年単位とかで更新していく作業をぜひ進めていただきたい。

（事務局）

今、防災マップを作成し、避難訓練を実施した場合に、市から防災資機材とかの購入に対する補助金を  
出す制度を作っている。森山地域など平成十何年に作った古い地区もある。昨年から、防災マップを作成  
して 5 年以上経過したところが、再度防災マップを作り直す場合、その補助金を適用するようにした。危  
機管理の部分でも 5 年を目途に見直した方がよいと考え制度を作ったところ。

（委員）

災害はいつどこで起こるかわからない。子どもたちが遊んでいる時に起こるかもしれない。子どもた  
ちが防災情報を把握するとか、目にするとか、活用はどのようにしているか。

（事務局）

市から学校などに呼びかけ、防災士の資格を取っている市の職員が防災講座を行っている。それから、  
NPO の「街づくり・防災諫早」というのがあり、連携して、いろんなところで防災講座を行っている。  
教育委員会とも連携して、学校側の防災講座などにも積極的に乗り出して、小学生の頃から防災に意識  
をしてもらう取組みを行っている。

（委員）

公共施設の効率的な管理の推進というところで、人口減少していくから建物などをまとめるという話  
だと思うが、例えばどういう施設とか具体的なものがあるのか。

（事務局）

公共施設等総合管理計画というのを令和 4 年 3 月に改定をした。大規模改修で長く持つのならば、そ  
の時期を逸しないよう計画的に改修する。施設整備にはお金がかかるので、順番を立てて考えていくと  
いうもの。市が管理してる全ての公共施設について、大規模改修なのか、建て替えなのか、何年度までに  
どういうことをやるかというものを定めた計画。

（委員）

多良見図書館のエアコンが止まって大変だったが、そういうのは計画に入らなかったのか。

（事務局）

市が持ってる公共施設、図書館や市の庁舎、この高城会館そうだが、個別の施設について、何年にどう

いう改修をしなければならないというのを、業者など専門のところに相談をしながら作ったのがこの公共施設の管理計画。何年後に改修しようという計画を立てているが、機械などは見込みより早く壊れることがある。イレギュラーな部分については予算を見ながら対応している状況。

（委員）

地区計画制度の活用による適正な土地利用の誘導を進めるとあるが、市街化調整区域など、市の中心部の開発とかのことになると思うが、苦しんでるのは周辺部で、子どもが少なくて廃校になりそうなところがある。今、業者を連れてきて、農業地を造成して宅地を作る動きが起き始めてる。適正な土地利用の誘導とあるが、そういう時に協力してくれるようなことがあるのか。

（事務局）

市としては、土地利用の線引きをなくす、市街化調整区域の撤廃ということで、長崎の都市計画から出て、諫早独自でやっていく方針を決定し、県にお願いをしたところ。関係の長崎市、長与町、時津町とも話しをしながらなので時間がかかるという状況。これまでも規制緩和を行ってきたことで人口が少しずつ増えている。ある程度まとまった開発には補助金を出すという制度を設けているので、旧 5 町でもそういう制度を利用して、まずは相談をし、可能な限り補助金を活用しながら、周辺分も開発できるような方向で進めている。